

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

山梨県 山中湖村立山中湖中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 平成30年5月18日 (金)

■ク ラ ス : 2年A組 (24名)、2年B組 (25名)

■オリンピアン : 佐藤 久佳 先生 (水泳・競泳)



1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介に続いて、オリンピックバリュー（エクセレンスは勝ち負けだけではなく、何事にも一生懸命に取り組むこと、フレンドシップは仲間と協力し、皆で力を合わせて取り組むこと、リスペクトは敬意を払い、相手を思い合いやる気持ちが大事であること）について説明し、運動と座学の時間は3つのオリンピックバリューを頭に入れて取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間で連続して跳べた回数を競い、引っ掛かっても続きから数えることをルールとした。
・各回終了後に回数と作戦内容を発表。「縄の中心で跳ぶようにした」「前の人との間隔を空けずテンポよく跳ぶことを意識した」等の意見が挙がった。佐藤先生より、作戦を立てて上手くいくことも失敗することもあるが、諦めずに挑戦することの大切さを8の字跳びを通して感じてもらった。失敗しても一生懸命より良くしようと努力したか、皆と力を合わせて協力することができたかが重要であると伝えた。

4. まとめ



・作戦を立て結果が出るのが一番良いが、結果ばかりに目を向けるとそれまでに取り組んできたことを振り返れないこともあり、それでは成長することはできない。その場で振り返ることができないと、時間と共に忘れてしまうことがある。それを意識してもらうために運動の時間において身体を動かしながら感じてもらった。ただ一生懸命取り組むだけではなく、一生懸命の中にもどのようなことを頭に置入れながら取り組むかで内容や質の濃い努力をすることができるようになる。この3つの言葉を忘れずに、そして運動の時間に取り組んだことも忘れずに座学の時間の話を聞いてほしいと伝え、運動の時間を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・改めてオリンピックバリューに触れた後、北京大会のリレーとリレー後のインタビューの映像を見せながらについて、当時の心境や競技について紹介。
- ・オリンピックでメダルを取ることが目標だったこと、その目標のためにどのようにオリンピックバリューを実践したかを伝えるが、自分が取り組んでいること、将来なりたいことを考え、自分のことに置き換えながら聞いてほしい、と伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問①：運動の時間を振り返って、どのような作戦を立てたか、またその結果（取り組み）について考えてみよう。
- 発表①：1回目を超えることを目標にして、達成することができた、縄を回す人を替えたことで記録が伸びた、等(エクセレンス)、苦手な人の背中を押してサポートした、全員で声を出すことで記録につながった、等(フレンドシップ)、メンバーを尊重し、全員に対する感謝の気持ちが生まれた、等(リスペクト)
- 発問②：夢や目標を達成するためにオリンピックバリューをどう活かせるか（取り組んでいくか）考えてみよう。
- 発表②：大きな目標を達成するために具体的な目標を立てる、失敗を恐れずに何事にも一生懸命取り組む、等(エクセレンス)、苦しいことがあっても皆と協力して取り組む、部活などで同じ目標を持った仲間と一生懸命努力する、等(フレンドシップ)、協力してくれる人への感謝の気持ちを持つ、仲間を尊敬する、等(リスペクト)

4. まとめ



- ・今回の授業を参考に夢や目標に向かってどのように取り組んでいくかを考えてほしい。夢を持ち続けることはできるが、それを叶えられる時間は限られている。1日24時間という平等な時間の中で、人の2倍3倍の時間をかけるとはできない。如何に内容の濃い努力をするかは自分で時間配分等を決め、すぐ行動に移すこと、たとえ失敗したとしても一生懸命取り組んでいくことが大事であり、失敗を恐れずに色々なことに挑戦し、夢や目標を叶える大きな一歩になることを忘れずに取り組んでほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年A組



2年B組





■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



■ 修了書贈呈

